

特集

南加賀のお葬式

〔葬儀に関する座談会〕
2017年7月27日(木)

【出席者】

東山 敏さん (打越町)

(教区門徒会長)

河上 保さん (山中温泉長谷田町)

(前南組世話方会長)

野崎 進一さん (三木町)

(西組世話方会長)

中村 弘毅さん (直下町)

(広報部門委員)

南中 幸子さん (伊切町)

(伊切同朋の会)

森田眞智子さん (伊切町)

(伊切同朋の会)

塩浦 政江さん (伊切町)

(伊切同朋の会)

日輪 道明さん (吉崎町)

(住職・広報部門幹事)

二木 利行さん (山中温泉上野町)

(住職)

小谷 碩彌さん (山中温泉栢野町)

(僧侶)

ここ20年ほどで、お葬式が大きく様変わりしてきました。

まずは皆さんが携わって、伝承されてきた南加賀の葬儀についてお聞きいたします。

■ 枕勤め (枕経)

亡くなったら、まず自宅での枕

勤めから葬儀が始まります。

東山 亡くなったら、枕経からや

ね。まず葬儀委員長を決め、葬儀全体を取り仕切っていただく。日程、場所、お手伝いの手配。賄い、他全て。喪主は分らないし、

家方はお参りに専念。

河上 葬儀に三日はかかった。

村は皆、親戚みいたいなものだから、あの爺さんに采配を任せば間違いない。ただ、家まで足を運んで頼みに行った。

■ お斎 (精進料理)

葬式全般のご飯 (お斎)、皆さんが寄られて作られたのですか？

南中 今までは、全てやね。

塩浦 ご飯用意は、まず自宅で親戚の人達の中から始まる。

南中 近所から鍋、味噌、漬物など、足りないものを持ち寄って、夜までにはご飯を作ります。

塩浦 そんなこと言うと若い衆が怒るよ。

森田 お汁と煮物、胡麻和え、酢の物、漬物など。

河上 婆さんが家で作った料理を、嫁さんがなじみがないのか、食べてくれない。

となると、もったいないから娘に声かける、娘は喜んで持って帰る。とすると周りから「お前のところ仲悪いのか」と聞かれる、それでもないんだけどね。(笑)

■ 内通夜

生前に法名を受けていない方は、住職につけていただき、その法名を自宅のお内仏に掛けて、内通夜の勤行が始まります。

また同時に、葬儀手伝いの人達に集まっていただき、葬儀委員長から段取り、手配、役割分担のお願いがなされ、作業が始まります。

■ 葬儀場 (自宅・お寺・公民館)

次の日の朝、通夜・葬儀会場に集合し、葬儀の帳場が立ち、葬儀案内、配布から始まり、会場の設営、香典返しの手配など全てが準



教務所で行われた法要でのお斎風景

河上 お斎は全て、隣近所やお仲間で作ったものです。若い人達には、その場で年寄りに精進料理の味付けや作り方を習い覚えたものです。

今はその機会もないから、煮炊きは苦手のままかな。お年寄りの長年の知恵や知識も聞かないで、言い争ってばかりです。

備されます。賄い方も同時に台所を中心が始まります。

野崎 葬式場用意の手伝いは、朝から寄らないと間に合わない。

森田 親戚の手伝いは、朝からずーっといます。

小谷 男衆の手伝いは、午前9時頃集合でなかったかな。

森田 女衆の台所方は、まず朝から「買い物帳」を持って、村の店へ行って人数分の食材の買い出し、その帳面に付けければ、現金は要らない。今は現金買いだけけど。

東山 買い物帳は、なくなっちゃったね。村の店も。

■納棺式

自宅お内仏で、納棺動行をしてから、午後4時頃にお棺を会場のお内仏へと運ぶのです。

ご遺体を、自宅から会場へ運ぶのではなく、自宅お内仏から次のお内仏がある場所へ渡していくのです。そこは厳格なのです。

東山 納棺は午後3時でした。

南中 自宅での納棺を終えたら、みんな会場行きます。

野崎 昔は、結婚式もそうでした。自宅お内仏から嫁ぎ先お内仏へとね、一緒やったね。

森田 少し前までは、生家のお内仏でお参りして、そして嫁ぎ先の仏さんお参りして始まる。

野崎 それも次々と省略やね？

河上 能登では、葬儀会場へ行く前に、自宅でお勤めし、出棺の折には、車に乗せるまで、僧侶が玄関で、御経をあげる。何とご丁寧と思いました。



左:南中幸子さん(伊切町) 右:森田眞智子さん(伊切町)

■本通夜

通夜は、お寺のご本尊へ向かい、阿弥陀経と正信偈を一同で勤めました。正信偈は六首引きでした。葬式場も祭壇横のお内仏でお

勤めをしたものですが、それも今は省略され、祭壇に向かつてです。また通夜終了も早くなりましてね。

塩浦 8時までには終わった。

小谷 山中は夜10時半やった。夜食が10時半に出すと決まっていたから。

塩浦 へー、夜食出すの？

河上 そやけど、今は夜食も早くなったよ。

野崎 それは、地域で違う。うちの方は、夜食は8時半やな。

■通夜説教

お通夜は、若い人達も集まる機会です。そこでどんなお説教できるのか。南無阿弥陀仏をどう伝えられるかが問われます。

東山 そうそう、そこが一番大事。若い人達は、ナンマンダブツに出あうご縁が少ない、身近な人の死に際し、教えを聞いていた

きたい。通夜の時に、そのようなお説教してほしいんや。

南中 お通夜でお寺さんがお話ししてくれるね。しないお寺さん

るけど、うちは必ずしてくる。森田 正信偈、六首引きで、お説教やね。

塩浦 お寺さんが、簡素化した感じがする。

野崎 通夜に参加している人の雰囲気も「早く止めて」という感じがするね。早く終わりたいと。



日輪道明さん(吉崎町)

■夜食

通夜、夜通しですから夜食が必要ですね。あとお酒とお茶？

南中 夕方のご飯を食べる。

森田 残つとるもん。

南中 酒は、呑みおった。

東山 けど、まだ葬儀の途中だから、たくさんは呑まんけどな。

■ 香典・不断香・焼香順

お通夜終了時、帳場の人から香典を預かり「失わんように」と念を押されます。

また会場に残る親族で、葬儀の焼香順を書き上げるとともに、不断香で、お光とお香を絶やさないように努めました。

野崎 香典は、喪主に渡す。

東山 あった、あった。

野崎 身内やね。

東山 近い親戚の者。

中村 お光とお香、絶やさないうにお守りしとった。

東山 親が死んだら、子どもはお守りせんといかんかった。

野崎 焼香順は、夜通しで作ったんや。寝られなんだんや。

■ 葬儀

諷経参りは、まだありますか？

お手次ぎ以外のお寺方、僧侶方の葬儀参列はありますか？

野崎 少なくともってきた。

東山 諷経参り、呼ばないかんと思う。

南中 伊切ではお講のお寺さん、

みな呼んどった。

「よそでは諷経参りをなくしているのに、伊切だけが続けていく理由はない」という声が上がっている。

森田 若い人が言うこと聞かん。



左:塩浦政江さん(伊切町)
右:中村弘毅さん(直下町)

■ 焼香順

焼香順は、喪主から始まり、最後は町内会長、班の班長さんが締めでしたか？

東山 最後はその区長や。昔から区長が葬式出したような形をとったんや。

森田 近頃、焼香順に名前が書いてないのや。名前も省略して、前

から順番。さっぱりわからん。

東山 前から順番ではいかんわー。やっぱし、近しい人やら、世話になった人、仕事関係、会社の社長が後ろの方に座わっている、最後に焼香に出てもらうの、

こんな気の毒なことない。受付おつたら、すぐ連絡とって、焼香呼ばな、失礼な、ほんとに。

河上 自分が漏れかけた時、「兄ちゃん、すみません！」と

いって飛んできた。「思い出すならええわいや。まだ、忘れとらん

のやから」と言うて許した。

森田 焼香落とされた人は、ものすごく怒ったわいな。



東山敏さん(打越町)

東山 自分の名前が焼香から落ちたことあって、よーう、弱つ

たことあった。家の者でもよく分らない、故人しか知らないお付き

合いがあるはず。他の人に任

さず、夜、寝んでも焼香落ちがないかと、朝まで調べるんですよ。

■ お布施

葬儀のお布施の中身、金額ですが誰が決めたのですか？

以前の香典帳を調べてですか？

またお布施はどこまで構うのですか？

枕勤めから葬儀、還骨勤行まで

小谷 そうそう。

野崎 葬儀委員長やね、「これぐらいは、せないかんぞ」って言うた。

東山 葬儀委員長は、香典もたくさん出してはいるからね。

南中 お布施は、まとめて全部出すんや。

野崎 葬儀のお布施、枕経からのお布施もして、あとは永代経。後の七七日参りや、満中陰はまた別。そこで締めてしまう。

東山 野辺送り、還骨、そこでやっぱり締めてしまう。

中村 ちらは、七七日経までは

出すなー。

葬儀のお布施は、七七日程まで出し、面倒を見るといつころと、葬儀までと、二通りあるのやね。

野崎 そうや。

■ お供え・盛籠

東山 村では、お葬式に来た人にみんな分ける。お葬式終わると、組々で一軒に一つずつ分ける。老人会は老人会で分ける、家は一般の家で分ける。そうすると、一軒の家に老人がおると二つ当たる。だから結構なお飾りがないと、足らんのだ。

南中 こちらは、保育所へ必ず持っていく。葬儀のお供えの「お下がりですよ」と。

東山 でも保育所もあんまり喜ばんのだ。一緒のもの当たるとええけど、多いのと少ないのとあつてね。

南中 そしたら、あれ欲しかったー言うて、泣くんやと。(笑)

東山 比べるんで、いかんのだ。

野崎 保育所用、ケンカするとい

かんから、同じものに揃えて、別にあつらえたよ。

森田 今でもしとるよ。

■ 火葬場

南中 火葬場にはおにぎり持って行った。お漬けものやら。

東山 昔は重箱に、おにぎりして持って行った。

野崎 火葬場行って、待ち時間あるさけ。



野崎進一さん(三木町)

今のような火葬場がなかった昔は、茶毘にどれだけ時間かかったのかな？

小谷 二人が夜、泊まり込みしておったがいね。酒呑んで。

東山 近い親戚の者は、夜の2時頃に1回見に行く、燃えとるかど

うか、横へ飛んで出とらんか。

(笑) ボーンと横へ飛んであがつて、燃えんとしまう時あるんや。

野崎 昔は「座棺」っていうてね、桶だからね。

■ お骨拾い

となると、お骨拾いは、次の日の朝ですね。何時頃？

東山 9時か10時頃やったかな。

河上 葬式の明くる日、身内と近い親戚でお骨拾いした。

東山 そして、お骨拾いしてからお寺行き、お骨上げの勤行でした。

火葬場ができて、還骨勤行が当日できるようになったんやね。

南中 そやそや。

東山 還骨勤行、あれは自宅でするんです。家にお骨がもどつたと。近頃は、みんな外です。

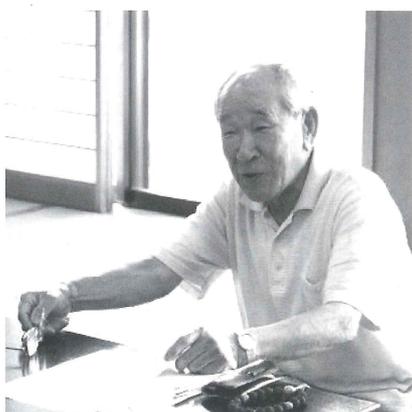
河上 以前は、その晩には、必ずお座参りがありました。

■ お骨収め

お骨上げ済んだら、次は何？

野崎 お骨収めや。

河上 2、3日後、お骨上げしてからお骨収めや。



河上保さん(長谷田町)

東山 分骨や。墓の分。

河上 本山に持って行くお骨。

野崎 三つに分ける。

東山 お寺と墓と、そして本山へ持っていくお骨と三つや。

お骨は、三つに分けた。それで、残っている二つのお骨を中陰壇において、中陰のお勤めを各家庭で勤めたのですね。

■ 香典調べ

香典調べ、葬儀が終了してから、ご苦労さん会でした。

喪主から謝礼の挨拶があり、最後は、お供えのお下がりをいただ

いて帰宅しましたね。

南中 香典調べがなくては、終わらんわいね。

河上 火葬場行つとる間に、準備したのや。

野崎 そやね。

南中 数が合わなかつたら、大騒ぎになるのや。

野崎 確認してせんかね。

■初七日

初七日のお勤めは、みんなでお参りしたのですか？

また場所によっては、香典帳を仕上げで持ってきたのが、初七日やと聞いていますか。



香典帳に書かれた焼香順(栢野町 昭和56年)

河上 わしは、もうちょっと早かったわ。

東山 葬式終わつたら渡した。

野崎 そこで締めてしまう。やっぱり「香典帳がある」って、残しとる人もいるよ。印刷じゃいかん、筆で書いてくれと。

東山 うちらはまだ、みんな筆で書いてあるけど。

河上 初七日お参りはないね。

東山 初七日お参りするときに、

やっぱりお菓子(お供え)持って行くわいね。七日、七日で。



自宅での葬儀(上河崎町 昭和11年) 社の印のつけた白布を頭につけているのは喪主。(中央)

■満中陰(精進上げ)

満中陰(四十九日)の法要には、沢山の方々がお参りされていましたが、近年は少なくなった気がしますが？

野崎 以前は手伝い衆、全部。

河上 ほやほや。

東山 葬儀に関わった人はみんなお参りや。

野崎 最近、それが抜けて問題になった。この間、葬儀で帳場の手

伝いした人が、満中陰法要呼んで当たらなんだんやと。

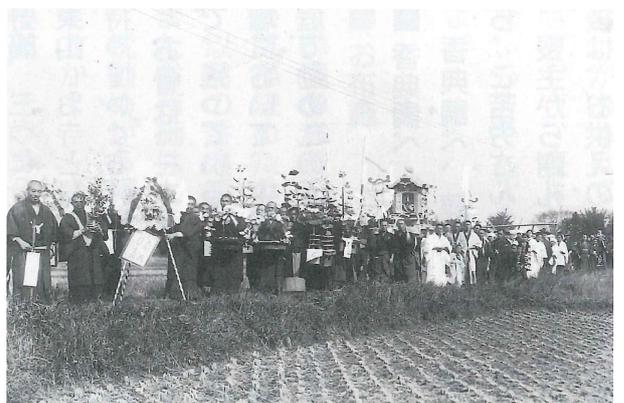
呼んで当たらんのや。あら恐ろしやー。

河上 四十九日は、今も昔も、手伝いした人は、みな呼ぶようになつとるんじゃわな。

座談会を終えて

枕経から始まり四十九日までが忌中であり、一大事として縁ある方の死を、地域あげて見送ったのが南加賀の葬儀と知りました。

しかも、経費の節約のために食材まで持ち寄り、限られた条件の中でも、人の手数と時間を惜しま



野辺送り(上河崎町 昭和11年)

ず丁寧に作り上げたのです。

「本当にお世話になりました」と喪主が謝礼を述べる。そのことでお世話になることの有難さや、人間関係の大切さを改めて学ぶ機会を、亡き人から与えられるのです。

「身内で簡単に済みます」ことができる人間関係の中を、私達は生きているのでないよ」と、皆さんが語ってくれたように思いました。

(※次号は葬儀の課題と、これからについて話し合います。)

これまでの南加賀における葬儀から満中陰までの流れ (※多少の地域差があります)

「葬儀委員長を頼まれた〇〇です」と、まずご挨拶があります。
 〇〇さんが亡くなり、本日から3日間、葬儀のお手伝いをお願いします。
 葬儀の日程は、お寺様と相談し、このように決定しました。
 親戚、会社関係、友人、町内の方々で役割分担し、執り行いますので、
 各担当に分かれて作業を始めて下さい。

1日目

帳場方の仕事(男衆)

- ・ 葬儀委員長の選出
- ・ 葬儀日程の決定
- ・ 葬儀手伝い人数確保
- ・ 葬儀の役割分担
- ・ 葬儀の祭壇手配
- ・ 葬儀参列者数の把握
- ・ 死去案内、葬儀参詣案内の制作と配布

賄い食事方の仕事(女衆)

- ・ 賄い方采配者の選出
- ・ 賄い手伝いの確保
- ・ 食事の人数把握、数量の決定
- ・ 葬儀全般の献立メニューと食材の手配
- ・ 通い帳(付け払い)での買いつけ

2日目

朝9時集合(男衆)

- ・ 葬儀場・受付・祭壇の設営設置
- ・ 生花・盛籠の手配
- ・ 香典調べの場所手配と人数の確認
- ・ 交通手段の手配
- ・ 香典返しの用意
- ・ 香典の確認と記帳
- ・ 焼香順の制作と確認
- ・ 寺方各お布施の用意
- ・ 各謝礼の用意

朝9時集合(女衆)

- ・ 通夜当日の昼食・夕食・夜食の用意
- ・ 役割分担し、作業開始
- ・ 夕食は午後5時
- ・ 夜食は夜9時、山中地区は夜10時半
- ・ 夜通し通夜のため、おにぎりなどの軽食用意
- ・ 親族に翌日朝食の手配と段取りを説明し終了



香典帳
(昭和56年)

3日目

朝8時集合(男衆)

- ・ 帳場・寺係・焼香係・受付係・火葬場係始動
- ・ 葬儀終了後、会場の後片づけ清掃
- ・ 葬儀全般の支払い
- ・ 香典帳作成(全記録の作成)

朝6時集合(女衆)

- ・ 朝食の用意
- ・ 火葬場待合室での昼食用意(親族用)
- ・ 葬儀会場での昼食
- ・ 後片づけ清掃、余った食材、調味料は自宅へ
- ・ 盛籠やお供えの分配、一つは保育所などへ



お斎

忌中は49日間

1日目

- 枕勤め(自宅)
- 内通夜(自宅)
午後7時～
勤行・法話

2日目

- 納棺勤行(自宅)
午後3時～
- 本通夜(自宅・寺または公民館)
午後7時～
勤行・法話

3日目

- 葬儀(自宅・寺または公民館)
午前10時
勤行 全員参詣
- 出棺 お見送り
- 野辺送り
勤行後、火葬
- 還骨勤行
午後3時頃
- 香典調べ(お斎)

- 四日経
- 五日経
- 六日経
- 初七日
- 二七日
- 三七日
- 四七日
- 五七日
- 六七日
- 七七日(49日)
(満中陰法要)
お斎(精進上げ)